

# 園稚幼之育教學科

會談座

お話を靠りますが、

柴田 お話を違ひますが、綺麗なもの

食べるもののなきをこわしたり、散らかしたり、おもちゃにするのはどういふものでせうか。

**壇** 理科だから、何でもこわすいふのは、我々大嫌厭よ。こわしたり、苛めたり、ふみにじつたりするさいふのは、破壊本能の現れだが、夫を其の盛綴返させる事はいけない。

**柴田** 今日丈はむしつてもいいと言ふやうなことは？

夫はいけない。例へば菊の花の観察をするのにむしらなくともよい。むしつたらその後の仕末が大切である。

**留岡** 春の野はむしる様に伺つたが、いやむしるこはいひませんよ、花束

を作るのはいい事だ、クローバーをこうつて兎にやるとかすればいい、それも可愛想で出来ない等といふならば魚等食べられないじやないか、

出席者（五十音順）

七  
藏氏

**留岡** 春の野を  
もうしたらよ  
いでせうか、  
**堀** 所有主のあ

下谷 竹町幼稚園 鎌田志人  
日本橋 千代田幼稚園 加茂川シゲ

麹町、麹町幼稚園 柴田みどり  
神奈川県不機力推進員 須子

神奈川県立砺波幼稚園  
須子啓子  
麴町、番町幼稚園  
徳久智江子

巢鴨、十文字幼稚園 留岡よし子

下谷 黒門幼稚園  
早塚 坂内ミツ文

京橋、鐵砲洲幼稚園 穂積篤子

京橋、月島幼稚園 藤田ソヨ  
不<sup>レ</sup>谷助雄園 公田士郎

丁谷入谷幼稚園 桜田女和  
日本橋、濱町幼稚園 水野世三

京橋、京橋幼稚園　山木　節

麻布、若葉會幼稚園  
八木澤志代  
山村善士

麥田  
管一頁照絲和國

三集六

期日二月八日

方女高師附屬幼稚園

大分以前のこ  
こ或小學校で  
六百人の兒童  
を郊外に連れ  
出した。丁度

馬鈴薯が芽を出でてゐる。東京の子ども達は馬鈴薯は八百屋にあるもの位にしか思つてゐない。大變珍らしがつて傍によつてみた。そこまではよい。子供は蒐集本能があるので、取つてよろしいかと先生に聞いた。先生はよろしいと許すと、一人に許したので皆も自分も自分もこ引抜いて三つて來た。其の時百姓は見てゐない。そして皆は歸つて來た。其の話をしたのは某學務委員だが、「此の頃の學校の理科は大變ですね」といふ、東京の子ども達だから、持つて來た丈で後は、萎びさせた。此では理科教育をしない方が良い。結局東京の子が畠を荒した。

といふ事にもなる。作物ごそらにある雜草との區別を知らせるのが教育だ、百姓が骨を折つて作つてゐるのを理解させなければならぬ。で、さういふ事は指導しなくては分らない事だ。同じ摘草をするのにも雜草ご作物ご見分けさせる等指導を要する。同じれんげさうをざるにしても百姓の作つてゐるものを見、一面に澤山あるからといって荒してはいけない。その指導が非常に大切である。

### 科學と夢の世界との限界

坂内 違ふ問題ですが、雷が太鼓を叩く、それでよろしいで腹の蟲は納つたが、いや、よろしいとはいはないよ

坂内 科學する、觀察するといふと、教へなくとも本當の所に結びつけない承知が出來ないので。夢から現實に連れて來ない、承知が出來ないので。

堀 いや、夢の世界を破つてはいけない。

太鼓を叩いてゐるのが本當と思つてゐるのに電氣と電氣のぶつかりあひだといつても子供には納得出来ない。一々本當の事といふので、理解出來ない科學的知識を教へる必要はない。

坂内 「富子さんの風船」といふ話は嘘だが、其の中に科學の芽生えがある。夢の世界を離れて現實の世界に持つて來るのは幾つ位でせうか、

堀 それは區別がつかない。猿蟹合戦で早く芽を出せ……實がなれ……さすぐになる様だが一方で種を播いててすぐに實がなる様に思はせてはいけない。種をまき實がなるまで實際にやつて見せる。一方で猿蟹の話をすると矛盾したといふ事はない。

坂内 猿蟹の様な話をしたのでは科學と反対の感じを世間の人々抱かないでせうか、

堀 科學する心を科學的知識を授けると誤解してゐれば直にさう思ふ。

お話は違ひますが私の取扱つた觀察をありのまゝお話し

て御批判頂きたうござります。

**加茂川** 東京市の保育研究會に觀察部といふのがあります。嵐の觀察をする様にいはれ、夫から嵐、嵐と思つてゐる。昨年の十月の終りに嵐がありました。早速年少組でしてみました。朝、幼稚園に来る途中にみたことを話しある。傘がおちよこになつた人があるとか、ざんくへ発表してくれました。それから一緒に表通りの方を見ませうといつて玄關の方にゆきました。人通りが少いとか、はすつかひに降るさかの有様を實際に見させる。今度はお舟は通つてゐるかしらさいふので隅田川の見える方に行きました。舟は通つてゐませんでした。誰かと鳩ばつぱはさうしてゐるかしらといつたので、私は先生が見て來ませうといつて子供達を待たせておきました。そして「鳩は集つてお話してゐましたよ」といふと子供達は安心した様でした。最後に私は、今頃は稻のさり入れなのに嵐ではお百姓さんが困るだらうと附加へました。その後年長組でもしてみましたが、年少組程活潑に發表しました。で何か映畫にでもよつて嵐の状態をみせた方が嵐がどんなものかを分らせるのによいですか、

**堀** いや映畫でも分らない。嵐の状態を體験させるのはいいが、嵐の觀念を授けるのはむづかしい。觀念的に、稻

のさりいれに困るといつたつて都會の子供は稻と夢の區別がつかない。米のなる木を知らない。嵐は百姓に困るといふのは東京の大人にも分らない。嵐の状態を觀察させて、平常と、さう違ふ。はすに降る。傘がおちよこになる。木の葉が落ちてゐる。道を通る人も少い、といふのを見せて發表させるのはいゝが、嵐とは何ぞやを理解させ、さういふ譯で起るといふのは無理だと思ふ。嵐の先生の經驗を話しても映畫を見せても分らない。映畫は狀態を體驗した者が見て始めて分らうが。假に屋根が吹きこんでゐる所を見ても嵐は有形的に出ないから分らないでせう。

**大體、題目を作つておくから困るんですね、**  
**觀察に題目をつくることは**

**山村** 幼稚園で觀察をさり入れた時、堀先生の文部省の講習を伺ひましたが、何だか題目をつけないといけない様に思はれました。題目をつけないで實際してゐる事が分らないし、漠としてゐたのでは何か觀察しきれないといふ事を零闇氣で悟りました。で練りに練り題目を作つて實際記錄をさる事になりましたが、題目はつけるべきでないでせうか、

**堀** 私は始めから題目をつけろとはいはない。去年の今頃、千葉縣のなるこの町から自然の觀察をするから是非

批評して貰ひたいといふので行つた事がある。一年は、讀本の教材にある電話ごつこだつた。この町には電話はあるが児童の家全部にあるわけではない。先生は、此は電話だ、此で話をするよく見えるといふ。それがなくとも聞える様な大きな聲でいつてゐる。どうして聞えるかといへば、先生が話す此の紙がビリ／＼する。其のビリ／＼するのが絲に傳はり夫が向うの紙に傳はり又ビリ／＼する。それで聞えるといふ。こんな理窟を教へるのを自然の觀察とはまことに馬鹿げた事だ、さういふ事ですぐ分るなら、グラハムベルを待たなくとも、もつと早くから、電話機は出來てる筈だ。三年生では、血の循環について教へるといふ。お前達は病氣した事があるだらうこいつて病氣をした事にし、醫者に診てもらつたらうこ無理に診てもらつた事にしてゐる。そして「醫者は何處をみたか」「脈をみたのだ、脈は一分間に七十五だ」、先生が時計をみてゐるから、脈を計れといふ。子供も達は手首を探つてみると、容易に分らない。先生は分るだらう／＼といふが児童に脈がさうしても分らない。そこで先生はそれでは手首をかういふ風に（上下する）動かして御覽、そら分るだらうといふ。児童には手首の動くのが分る。そこで一分間経つて、さあ幾つあつたかと聞いてみると十八乃至二十一位にしか答へない。そんな

筈はない二回しても矢張り同じだ。それはつまり手首を動かす回数を數へたのである。それから今度は脈を打つと同時に心臓がドキ／＼してゐるんだ、さあ此處を抑制してみろ、着物の上から胸を押さへてドキドキしてゐるだらう、さういふ時に血が體中を廻つてゐるのだ、それが血の循環だ、といふ。結局そんな事はやらない方がよかつたのである。手首を動かさせたから脈が分らなくなつたのだし、着物の上から觸らせたから脈が分らなくなつてしまつた。血の循環を觀念的に教へるのでは却つて分らなくしてしまつたのである。自然の觀察で題目を與へるこさうしても夫に捉はれ觀念的な知識を授けることになつていけない。幼稚園の保育項目に觀察が加はつたのは非常な進歩だが、題目を拵へて捉はれ、先生があやふやな知識を授けるといふのは誤解である。

#### 國家の要求と幼稚園の觀察

**菊池** 高度國防國家の建設が叫ばれてゐる現在、一方に科學する心はいはれるのは國家は一人の武器をつくる者を要求してゐるのはないでせうか。

**堀** 無論さういふこゝも含まれてゐる。一人や二人でなく大勢。併し其の爲には國民全部がさういふ下地がなくてはならない。例へば戰車兵は一人でタンク内で操縦、修理、射撃、通信する能力を備へねばならない。つまり一人

で四つか五つの能力を備へてゐなければならぬ。それは二年間の兵役期間ではさうする事も出来ない。基礎として國民全部が機械を操縦することが出来る能力を持つてゐなくてはならない。また物事を科學的に處理する能力をもつてゐなくてはならぬ。しかし科學するこいふのは、現在の死んだ科學的知識を覚えさせるこことではない。

**菊池** さういふ事について、幼稚園で今までこ仕向け方が違ふといふ事はないでせうか、

**堀** 第一に教へる事をやめて出来る丈子供自身にいろいろのものを作らせたりいぢらせたりさせる。例へば落下傘でも、子供が拵へてこばす。おもりの工合で開き方が違ふ。そのおもりは傘の大きさで違ふ。さういふ事を拵へる間に工夫する力を養ふ。玩具製作を入れてゐるものそゝの爲である。保育の場合に、玩具や砂を使つていろく工夫させるのはよい。その時高い程度を望まず、満四歳ならそれ丈の努力をすれば出来るこいふ程度のものこする。

### 幼稚園の觀察

**柴田** 幼稚園での觀察は自然を愛する丈でなくものを深くみて科學する心を起す爲の方便にするのですね。自然がこりつきやすいから。

**堀** さう極端でも困る。子供は自然と離れて生活してゐな

いんだもの、自然を理解する事は人生、國家の發展上大切だから、嵐等についても正確な認識を持ち如何にして避けるかが大切。かういふのです分つたかこいつとも分るもんではない。「自然物や自然現象について國民生活に須要の知識を得させ、科學的處理の初步に習熟させ、科學的精神を涵養する」この何れもが大切である。併しここは先生の持つてゐるものをおぎこむこことではない。

**柴田** 春に自然に親しむ爲にはこれがいゝ三題目を出しておくのは如何でせうか、

**堀** いや、むづかしい事はない。春の野に遊ばせておけばよい。

**山村** 子どもが見たか、知つたか、知りたい氣持があるのです。

**堀** 教へたい氣持の方が大きいだらう。

**山村** 私も觀察部から頼まれて、兎の觀察記録をこつてるのですが、三度こも失敗しました。子どもはたゞぼんやりしてゐるだけでした。

**堀** それでよい。失敗こ思ふのは記録を持つて行きたいからで、その爲に知りたいと思ふのだらう。

**徳久** よく見る子は見、ぼんやりしてゐる子はたゞぼんやりしてゐる。

**堀** ぼんやりしてゐる子の爲に、他の人に足踏させる必要

はない。みせようとするのにほんやりしてゐるといふのはぎこか病氣だからでせう。兎を出して、兎はさんなししてさぶだらう、一つ真似してみなさいといふと真似してみようとしてさぶ。誰がうまい、まづい、兎の耳はさんな上合か？ 真似してみなさい、と真似させる。又兎を畫に描かしてみる。よく画く子と悪いのとある。それは悪いなりに繰返すとよくなる。

よく引く例だが東北の或る小學校で猫と鼠の共存關係を教へるさいふので實物の用意をして授業をした。授業前に見せる興味が薄くなるといふので籠に入れた儘教卓の下においた。そして、猫の顔をみた事があるか、鼠をみた事があるか、なぞと形の如き問答をした後これから猫が鼠をとる所をみてやる目的提示をした。そして籠から猫を出したが猫は猫をかぶつて鼠をとらない。鼠はめんくらつて捉へられようしない。舞臺監督のやうな顔をした校長が早くした方がよいといふので眼で教授者に合図をした。そこで教授者が鞭で猫を軽く打つと猫は動かないで鼠が活動をした。そして校長のズボンの中に入つてしまつた。するべく校長は大變、一生懸命足を振つて鼠を出さうとする。教授者は鞭を立て校長のズボンの中から鼠を出さうとする。しかし鼠は中々出ない。それで猫が鼠をとる活劇でなく校長と訓導

の活劇となつた。しかし鼠はさうしたところが校長のズボンからボーンと飛び出して隣の室に逃げてしまつた。吾に歸つた訓導は授業を始めようとして教壇に上がりつて猫は見えれば今までの活劇の間に猫は何時のまにかるなくなつてゐるといふ始末。この授業で猫が鼠をとるところを見せられなかつたが猫はさんなしに猫をかぶるものか、鼠はさんなしによくたての物でもかけ上がるか。鼠は一寸した所にもかくれるものだといふやうなことを觀せるに好い機會であつた。つまり鼠の運動の方法、猫の習性をみせるのにいい機會だつた。兎等をみせるといふ時に耳の長いのをみせようとしたら別に計畫しなくてもよい。子供はすぐみつけるし、まねをしなきといへばそれでよい。しかし兎の脣はさんなになつてゐるか、あなたの脣さきこがちがふかさいつても中々分らない。何故さぶかさいつても中々分らない。そんな理窟を授けるのではない。幼稚園では、兎の真似をさせ、繪を描かす、描いたものを切つて貼る。面を作らせる。遊戯するといふことでよい觀察等に時間をつかはなければならぬといふ事はない。觀察に談話、動作が必ず伴ひ、繪歌が出るといふわけである。國民學校初等科の自然の觀察もさういふ風にする。

堀 あれは觀察があるが理科の話だ。  
徳久 意味がないわけですね。

**磁石や蟲眼鏡で遊ばせることは?**

水野 磁石ごまではゆかないが、馬蹄形をいぢらせるのは  
どうでせうか、

堀 いゝ

**蟲眼鏡は?**

堀 いゝ、その前に鏡もよい。其の時にさうして蟲眼鏡は  
光が集まるでせうご力むのはいけない。さうして磁石に  
吸ひつくかは今日我々でも分らない。磁石でいろいろや  
つてゐるさつくものごつかないものごある。ブリキ罐は  
くつつくが此頃の紙罐はつかない。小さい鉢はつくが大  
きいのはつかない。かういふ事を経験させる事が必要で  
ある。

**標準色のこと**

留岡 色の事ですが、青バスクの青は緑で……

堀 國民學校で標準色を定めてゐる。國民全體に色彩觀念  
を統一する爲に、それで色彩掛圖を各教室に掲げる様に  
なる。

**文字と幼稚園**

留岡 字の話ですが、先走つて教へるのではありませんが  
覚えてゐても、小學校の先生の取扱ひによるのでないで  
せうか、のびる子をのばさずにおくのは惜しいと思ひま  
す。

堀 あれはやはり目立つから、

坂内 紅綠盲が多いのにわざ／＼分らないのを使ふのは?  
堀 結局三原色が問題になつて來る。白、黒にしては問題  
になるまい。黃、青ごしても困る。小學校の算術書は色  
盲の者に分らないので困るといつてゐる。がそれはいは  
ば不具だから、少數のそれで一般を律するわけにはゆか  
ない。

鎌田 一年の理科の時間をみましたがあぶり出しをして  
ました。あれは幼稚園でもしてゐるのですが、

堀 こぎもが文字を教はりたがるのに教へるなごいふのは  
かたくなでをかしい。小學校であぶり出しをするからし  
てはいけないごいふ事はない。たゞ唱歌は、小學校です  
るもの幼稚園でして悪い癖のついてゐるのがある。そ  
して知つてゐるごいふので悪い癖のまゝ歌つて本當のを  
覚えようごしない。國民學校の藝能科音樂で必修教材を  
選択教材ごあるが、必ずするごいふを見込んでおいて  
おやりにならなくもよいでせう。その方がお互ひの爲  
でせう。

**堀** 義務教育で困るさいふのはおやりにならない方がよい  
でせう。一年生に入つた時は非常によく字を覚えてゐた  
が六年の今では全く他の子と同じさいふのがある。書く  
さいふ事も出来るさよいが指導する事になる三筆順なさ  
始めの悪い癖がさうしても抜けない事がつて文句が出  
るのです。幼稚園では自然に任せたおかげ、字を覚えた  
がる子には筆順なさも指導してよい。

### 結び

**倉橋** 私は止むを得ない用事の爲に途中から來たのです  
が、質問せられる方の眞剣な態度、又答へて下さる堀先  
生の御熱心さに、本日のこの會の誠に有意義であつたの  
を觀察(?)いたしました。皆さんの中にはまだく質問  
がお有りのやうで、こゝでこの會を閉ぢますのは誠に惜  
しいご思ひますが豫定の時間も疾うに過ぎて居りますか  
ら一先づこゝで終ることに致しませう。

最後に私の立場から一言つけ加へさせていたゞきます  
が、引力の法則を發見したニュートンは、獨りで林檎の  
木から落ちるのを見て不思議に思つたのでせうか、又蒸  
氣機關を發明したワットも、自分一人で、煮えたつた鐵  
瓶の蓋のもりあがるのを見て不思議がつたのでせうか?  
私は決してさうでは無かつたらうと思ひたいのです。

ニュートンの傍にはきつこニュートンのお母さまも一緒

に見てゐて、

「林檎が落ちて來たが、不思議だね。さうしてだらう」  
「おつしやつて、ニュートンさいつしよに不思議がつた  
のだらうと思ひます。又ワットの傍にもきつこお母さま  
なり、はたの人が一緒に見てゐてワットの抱いた不思議  
を助長し、他日その不思議をさうしても解決しないでは  
居られないやうにした或る力があつたのだらう信じま  
す。之れは大變に恣まな想像ですが、かうい意味で、  
未來のニュートンであり、ワットとなるであらう小さい  
人達のそばにある私達にさつて、今日の集りは誠に有意  
義でありました。堀先生に厚くお禮申上げます。又これ  
からもかういふ集りを時々致しませう。

〔終り〕